

## 各種報告

### 第34回 北海道地区本部 定期大会報告

8月24日(土)札幌市内において第34回地区本部定期大会を開催しました。

宝田執行委員の開会挨拶で始まり資格審査・大会成立を確認し、大会議長には、札幌機関区分会の田中代議員を選出し議事が進められました。

地区本部を代表して菊地委員長は①貨物会社の経営状況②安全の確立③組織強化・拡大④政策課題の4項目について「西日本豪雨被害をはじめとした多くの自然災害があったにもかかわらず黒字となったが、災害が起これば収益に大きな影響がでる。会社はまだまだ脆弱である。JR貨物グループ中期経営計画2023」では、連結経常利益148億円・鉄道事業69億円の達成を目標としており、会社の動向を注視していく。

安全の確立は最重要課題だが、会社発足以降の重大事故の責任と教訓を踏まえ、悲劇を二度と繰り返さない決意を固め、「安全は絶対に譲らない」という信念のもと、安全最優先の職場をつくらなければならぬ。7月26日札幌駅前構内において、コンテナ車の押込作業中、フォークリフトが踏切に進入し、貨車と衝突、脱線した。死傷事故や重大な事故に繋がりがかねない事象は重く受け止めなければならない。



菊地委員長

組織拡大については、良識ある他労組合員を私たち貨物鉄産労に結集をさせ、民主化闘争完遂に向け全組合員が邁進していかなければならない。簡単ではないが地区本部を先頭に全組合員が組織拡大を意識して行動していく。

政策については、国交省は2030年度末の新幹線札幌延伸時の高速化に向けて、貨物列車の全面撤退案を断念し、一定程度残す方向となった。北海道経済にJR貨物は必要不可欠な存在。今後の青函共用走行区間の取り扱いは「貨物にとつて大きな制約条件にならないかが強く懸念される。必要となる財源の確保をJR連合とともに求めていく」と挨拶がありました。

続いて来賓挨拶では、JR連合北海道地方協議会会長(JR北労組委員長)、交通共済田

原事業本部長、より激励の挨拶がありました。その後、中央本部大杉委員長から、組織拡大について・選挙の取組み・貨物会社の経営動向・交通政策課題について挨拶がありました。

引き続き中井執行委員より祝電・メッセージ披露のあと、浦島副委員長より2018年度経過報告、協約・協定締結承認、吉永書記長より2019年度運動方針(案)、浦島副委員長より2018年度決算報告、2019年度予算(案)が提案され、質疑に入りました。

おもな意見として「新人事賃金制度について」「共済関係について」「労働条件と職場環境の改善を」「シニア社員の働き方について」などの発言に対して本部・地区本部より答弁がされ、吉永書記長が集約運動方針は満場一致で承認されました。

その後、役員改選、小森執行委員が大会宣言(案)を提起し、満場一致の拍手をもって採択されました。最後に、菊地委員長による団結ガンバローで定期大会を終了しました。

第34回地区本部定期大会終了後、貨物鉄産労北海道地区本部「第10回退職者連絡会総会」を開催しました。

大矢会長の挨拶では、加藤副会長から昨年の総会以降の総括と今後の活動計画が述べられ、その後、交通共済田原事業本部長より挨拶があり、新たに加入された仲間を紹介して総会は終了しました。



懇親会



退職者連絡会の皆さん

ました。なお、定期大会終了後の交流会では場所を移して退職者連絡会総会に参加された諸先輩を交えて交流を深めました。

「支え合い」は「ささえ愛」。  
仲間みんなで守り合いたい。

交通共済は、JRやJR関連企業で働く仲間を守る相互扶助の共済です。厚生労働省の認可を得て事業を行い、組合員とご家族の安心と生活をサポート。  
慶弔見舞金制度の総合共済から、火災、地震風水害、交通災害、生命、入院、マイカー、自賠責、総合医療と共済事業を展開し、幅広い保障体制を整えています。





### 第35回 関西地区本部

#### 定期大会報告

8月24日(土) 広島西労組会議室において、第35回関西地区本部定期大会が開催されました。大会を代表として関西地区本部福本委員長からは、昨年の災害、参議院選挙の活動報告と御礼、春闘、新人事制度、組織強化等について述べられ、続いて来賓の辻村本部長より、参議院選挙と春闘総括、安全、新人事賃金制度等々、あいさつをいただきました。

植岡書記長から、経過報告と今後の取り組みについて説明を行い、質疑応答では、要員問題、新人事賃金制度評価制度関係、民主化等について発言がありました。特に、要員問題についてはなかなか根深い問題ではありますが、少子高齢化を見据えて仕事量に見合った要員となるよう働きかけていくこと、新人事賃金制度の評価制度については、注視していかなくてはならないことを皆で確認しました。

大会終了後は、場所を移動して懇親会を開催し、更なる親睦を深めました。



### 第35回 九州地区本部

#### 定期大会報告

8月25日(日)、北九州市・国際会議場において、九州地区本部第35回定期大会が開催されました。大会前段として、川岡全交運共済九州推進部長を迎え、共済学習会を開催し、それを受けての開催となりました。



#### JR連合教育広報担当者会議を開催

JR連合は8月26日、JR連合会議室において教育広報担当者を開催し、辻村書記長が出席しました。議題では、JR連合ホームページの活用や機関誌の紙面作りや、各単組から今後の取り組み等を報告しました。



開会挨拶後、議長に北九州支部林代議員を選出し、議事は進められ、地区本部を代表して挨拶に立った田代委員長は、「昨年の大会以降3名の組織拡大が出来た。いざいざも保全センターからの組織拡大であり敬意を表したい。これは職場での人間関係や新人事賃金制度の問題点などを、若手中心に作り上げ働きを持った結果が、拡大につながったと考える。この拡大の流れを、他職場に波及させる取り組みを強化していく」「安全については、今年1月、スマホで動画を見ながら乗務し、信号冒進を犯すという事象がおき、会社の体質が問題視された。このようなことがあれば、過去の重大事故から信頼回復に向け築き上げてきたものが一瞬で崩れてしまう。2017年12月には、組合員による千早操車場構内触車死亡事故が起き、会社全体で再発防止に努めていたが、幡生駅構内・沼津駅構内で触車事故が連続して起きてしまった。何度もうかが、業務においては安全最優先を心掛けてほしい」などと訴えました。

続いて来賓として駆け付けていただいた、JR連合九州地協中原議長(JR九州労組委員長)、九州ロジステイクス労組木村委員長、全国交運共済九州事業本部川岡推進部長、九州退職者連絡会藤本会長の方々から、激励と連帯のあいさつをいただき、本部辻村書記長

からは、会社の情勢、政策課題、安全問題や民主化情勢などについて話がありました。議事では、原書記長より主な活動の経過、新年度方針案・予算案までを一括提起し、その後質疑が行われ、新年度方針案が満場一致で採択されました。

役員改選では、執行副委員長に、赤松重幸氏が新たに選出され、その後、大会宣言案を読み上げ採択し、最後に田代委員長の「団結ガンバロー」で閉会しました。懇親会では、来賓の方々も交え、楽しく意見交換を行いました。



田代委員長



九州地協中原議長



退職者連絡会藤本会長



団結ガンバローと懇親会

・JR連合第26回賃金実態調査の実施について、ご理解ご協力をよろしくお願いたします。9月分給与で行います。取り組み方については、各地区本部にお聞きください。

・熱中症労災が連続して発生しています。業務においては安全最優先でお願いいたします。